

お爺さん三人の大連の旅(3)

寺西俊英

8月14日の朝である。6時半に起床してSさんとTさんの部屋に行き、一緒に38階の展望レストランに向かった。昨日は朝5時に丹東に向かったためホテルで朝食が摂れなかったのだ。今朝はゆっくりと360度の展望を楽しみながら食事しようということにした。李さんとは9時にロビーで待ち合わせることになっている。展望レストランは食卓が置かれている幅3~4メートルの窓側部分がゆったりと回転し、5分くらいで1回転して元の位置に戻る。各種の料理が置かれているところは動かないので、お替りしようとすると料理によっては随分遠くまで歩いて行って、そこでお皿に載せることになる。

展望レストランからは晴れているので大連湾の向こうの経済開発区まで見渡せる。私の好きな「大黒山」も見える。戦前は「大和尚山」とも言われたが頂上付近には高句麗が築いたと言われる古い城壁があり、隋の征討軍が苦戦したところである。今でこそ東北地方は中国の領土であるが、当時は高句麗、それに続く渤海など漢民族から見れば異民族が支配していた地域である。標高600メートル位の山だが周囲に高い山が無いので美しい山容が際立っている。港に目をやるとそこには航空母艦の「遼寧」がドックに入っていた。ロシアの中古の空母を購入し改造した中国の航空母艦第一号である。これで思い出すのは一昨年大連に行った時、友人が、「中国は航空母艦を保有できたが日本にはありますか？」と自慢そうに訊くので、「日本は憲法の制約があって今は保有していないけど、第2次世界大戦の時は何隻も保有して米軍と戦ったんだよ」と言うと黙ってしまった。因みに最初から空母として設計され建造できたのは世界で日本が初めてだということをご存知であろうか。「鳳翔」という名の空母で1922年に竣工している。日本の空母は客船から改造されたものも含めると、第2次世界大戦が終了するまでに延べ20隻余りを建造している。

食事をしながら昨日の丹東での話に熱中していると、そのうちにどこかの小学校の生徒が大勢来

て静寂が破られた。8時を少し回ったのでこころが潮時とレストランを出た。9時前にロビーに降りると李さんはすでに来ていた。いつも時間は正確である。ホテル前に待機している、李さんが手配してくれたハイヤーに乗り込み旅順に向けて出発した。順序としては「水師営」からがいいと言うのでそちらに向かう。水師営は言うまでもなく1905年に日露戦争が日本の勝利で終わった時、停戦条約が締結され乃木大将とステッセル將軍の会見が行われたところである。古ぼけた茅葺風の平屋の建物がその場所だが、100年余り前の建物と同じように1996年に復元されたそうだ。敷地の一角にはこれも何代目か知らないが“なつめ”の木が枝を広げている。ステッセル將軍はこの場所まで白い軍馬に跨り到着したが、着くとなつめの木に白馬を繋いだので有名である。なつめの木を見ると、国文学者で歌人の佐々木信綱が作詞した「水師営の会見」という歌の2番を思い起こす。この歌は9番まであるが、「庭に一本なつめの木、弾丸跡もいちじるく崩れ残れる民屋に今ぞ相見る二將軍」がそれである。

両將軍が会見後、記念写真を撮ることになった。乃木大将とステッセル將軍を中心に9人の軍関係者で取り囲んだ有名な写真がある。戦争をした両軍の將軍達が仲良く記念写真を撮るのは極めて珍しいことである。この写真は従軍した光村印刷(株)の写真班が撮影したもので、同社はこのことを大変誇りに思っているそうだ。同社は東証一部上場の印刷出版業界では有名な会社で、本社は品川区にある。ちなみにステッセル將軍が乗って来た白馬は、乃木大将の敵将への帯刀を許した遇し方に感激した將軍が記念に乃木大将に献上している。この馬はその後日本に連れて帰り軍馬の種馬となり、最後は鳥取県のある牧場で23歳の生涯を終えている。恩讐の彼方に、の国際版である。会見場の建物の敷地を出たところに土産物のコーナーがあり、当時の説明をしてくれた日本語の堪能な係りの女性に導かれ、そこで3人は売りに上げに協力した。なお「水師営」は、清朝の北洋艦隊の隊

員の駐屯地の意味であり、この地名にもなった。

次に「旅順監獄」に向かった。旅順監獄は、1902年ロシア帝国が建設を始め日露戦争で日本が受け継いだ形となり1907年に拡張して完成した。1945年敗戦後ソ連が旅順に入り解体してしまっただけでなく、1971年に再建され「旅順日露監獄旧址」として陳列館となった。正面から見ると2階建てのいかにも近寄りたがたい感じの建物である。当日は天気も良く日差しが強いので街路樹の下に車を止め我々3人で見学した。内部はあまり気持ちのいいものではないので説明は割愛したい。一つだけ紹介したいのは、「安重根」の独房である。独房の外壁に、中国語、英語、ハングル、日本語の説明文が本人の写真と共に書かれていた。安重根は皆さんよくご存知と思うので簡単に触れたい。安重根は朝鮮の独立運動家と言われている人物で、1909年10月26日に前韓国統監の伊藤博文をハルピン駅構内で暗殺した。伊藤博文は日韓併合に反対の立場であったのだが、この事件により併合の機運が高まり1910年に併合したと言われている。当時のハルピンはロシア帝国が権益を持っており、ロシア官憲に逮捕され日本の関東都督府に引き渡され旅順監獄送りとなった。殺人罪で伊藤博文の月命日に合わせ、1910年3月26日にこの監獄で処刑された。

本件は、クリスチャンであった安重根と日本人看守との交流があった、などの後日談がたくさんあるが紙幅の関係でここでは触れない。

ここを後にして本来なら203高地に行くのであるが、残念ながら今工事中で行けないということなので「白玉山」に行くことにした。海拔130メートルの高さで山というより丘に近い。車で頂上まで行くとそこに大きな塔が屹立している。この塔は「白玉山塔」といって、日露戦争後東郷平八郎と乃木希典が発案して建立した慰霊塔である。1909年に戦没者追悼のために建てたもので66.8メートルもの高さがある。北京から遠く離れていたためか、紅衛兵に破壊されずによく残ったものだと思う。建設時は「表忠塔」と命名したが、中華人民共和国になって「白玉山塔」と改名された。この塔のある所からすぐ前方が旅順湾である。有名な虎のしっぽと呼ばれる砂州と湾



ホテルからの風景。手前が大連駅。左上がドックに入っている、遼寧。

口が綺麗に見えカメラに収めた。日本軍は旅順湾内に集結していたロシア艦隊を203高地から砲弾を注ぎ全滅させたのだ。湾口から外に逃がさないようにするため、巾着の口のように狭くなった湾口に犠牲者を出しながらも何隻もの船を沈めたことはご承知の通りである。ネットによれば白玉山の命名は李鴻章（1823年～1901年）だとある。彼は日清戦争（1894年）終結時、下関条約調印時の清国代表として記憶されている方が多いのではないだろうか。旅順は、清国の北洋艦隊の基地であり事実上李鴻章の軍隊でもあったので旅順には縁が深くて何かの折名前を付けたのかもしれない。今回の文章は戦争に関する事項が多くて恐縮しているが、事実としての歴史は知っておく必要がある。

お昼になったので、近く中華レストランに行った。旅順駅のすぐ近くである。この駅は、昔は満鉄の拠点駅でにぎわったらしいが今は一日数本の列車しか走っていないらしい。当時のままのネギ坊主のような屋根が乗った形の緑色を施した洋風の駅舎で、とても印象的な駅である。レストランでは「打卤面（あんかけ麺）」がこの店の名物とPRされたので全員この麺を食べたが大変美味しかった。卤（ルー）とは、片栗粉を混ぜてとろみを付けたものをいう。食後やはり日露戦争の激戦地である「東鶏冠山」のロシア陣地に立ち寄った後、大連市内の星海広場に向かった。以下は次号で紹介したい。（続く）